



●ドレスデン色彩フォーラムにて

日本と異なりカラッと爽やかな7月、ドイツで第13回ドレスデン色彩フォーラムが開催されました(15-16日、於ドレスデン工科大学・色彩論コレクション)。コロナにより2年延期された今回のテーマは「色彩教育」。偶然が重なり、私もこちらで2020年度第2回オンライン講座「現代ドイツの色彩教材」の内容を、回転盤セットの開発者エクハルト・ベンディン氏と共同で発表させていただきました。会では、主催者の建築学部教授ラルフ・ヴェーバー博士をはじめ、色体系の歴史を総覧した大著『Color ordered』著者アンドレアス・シュヴァルツ博士、国際色彩学会AICの色彩教育研究グループ代表ロベルト・ヒルシュラー博士、オストヴァルト研究の第一人者アルブレヒト・ポールマン博士など錚々たるメンバーにより、さまざまな領域から色彩と教育にかかわる研究報告が行われました。戦争やコロナの影響で一苦勞の渡航でしたが、現地の研究者の方々の誠実と親切に出会い、ドイツの最新の研究を概観できたことは、これを補って余りあるものでした。今後、対面開催による豊かな交流が再び活発になるよう願いながら、今後も研究を積み重ねたいと思います。(教材研・山根千明)

源氏物語の色-38「横笛」

柏木の一周忌にあたる年の春、光源氏の袖にまとわりつく薫の姿を描いた場面。このとき、光源氏は四十九歳、薫は一歳である。

這ってずれてしまった着物の裾を、長く引きずって、背中の方だけ着ている姿が、とてもかわいらしい。

着物は白い羅(うすもの)に、唐の小紋の紅梅とある。紅梅は藍で染めた薄い色の上に紅花で染めたわずかに紫がかかった紅色。その色が幼子の愛らしさをより際立たせていると思われる。

肌は色白ですんなりとして、柳の木を削って作った様、頭は露草で染めた様だと表現している。露草は染料としては色褪せし易いが、花摺(はなずり)などに用いられてきた。髪を剃った青々とした色を喩えたのであろう。

口もと、目元の美しさなどから、面影は感じるものの、本当の父親である柏木には、ここまで際立った美しさは無く、母である光源氏の正妻、女三の宮にも似ていない、既に気品があり、立派で、格別に見える様子は、鏡に映った光源氏自身の姿にも似ていないことなどもないなどと、薫を見ながら光源氏は様々な思いをめぐらせている。

(教材研・平山和香子)

●金色夜叉の色名から教材を作るー1

金色夜叉の色名について、5回にわたり、この通信に連載しました。

この内容を使って、「文学と色彩」の教材となるパワーポイントを各自が作って、教室などで、使ってみてはいかがでしょうか。

これこそ、色彩教材研究会通信の本来の目的です。その構成を列記してみます。

1P:表紙を作成する。題名、出典、発表者名、その他、表紙に必要な内容を記載。

2P:金色夜叉の粗筋を、文章で記載。

3P:内容を5分類して行う色名の抽出方法を、箇条書きの文章で記載。

4P:女性の着物・装身具・持ち物の色名一覧を記載(女色)。

5P:男性の着物・装身具・持ち物の色名一覧を記載(男色)。

6P:肌色・髪・髭などの色名一覧を記載。

7P:自然描写の色名一覧を記載。

8P:上記の4系統以外の色名一覧を記載。

9~11P:全編の色表現の基本的な色名を統合整理した一覧表を記載。

イラストレータなどで色票を作れる人は、9~11Pの色票一覧表を3~4ページに分けて掲載すると、判りやすく、美しい教材を作ることが出来ます。(続く)(教材研・永田泰弘)